

あまりない。国内で、MSC(持続可能で適切に管理されている漁業)の認証を取得しているのは、北海道のホタテと京都のアカガレイ漁の2つだけである。農産物で「グローバルGAP」の認証を取得しているところは200程度しかない。「日本の食はすごい」と言われているが、世界から「日本の現状はこんなものか」と失望を買うことになりかねない。

オリンピックの選手村で提供する料理の食材は、グローバル認証を受けたものでなければならないという基準がある。東京オリンピックの開催時、今のままでは良い食材でも使用できないものが多くなってしまふ。

今の日本食ブーム、安全・安心な日本の食というレピュテーションを基礎に、日本がグローバル・スタンダード設定の主導権を握れるチャンスでもあり、帯広畜産大学が果たす役割は大きいと思っている。

地方と世界をつなぐローカル・ブランディング

日本の農水産物が世界を相手に闘うには、高コストを上回る高品質の「JAPANブランド」を確立しなければならない。そのためには、品質の可視化が必須であり、グローバルな品質管理認証への対応をしなければならないが、日本は遅れている。

帯広畜産大学は乳製品工場を持っており、「畜大牛乳」などを製造・販売し、年間6,000万円の売り上げがある。この工場はFSSC22000の登録認証書を受けた。構築した食品安全マネジメントシステムを維持・管理して安全・安心な乳製品を製造するとともに、このような取り組みを生かして人材の育成も行

っている。

地方大学はかなり国際化しており、多くの海外協定校を持ち、産学官の連携活動を行っている。昔、産学官協働というのは禁句であったが、今は全く問題なく進められている。海外展開にあたって必要な進出先ニーズの把握、現地の事情・商習慣等の情報は、大学の人的つながりでかなり得ることができる。帯広畜産大学は、モンゴル国立農業大学、さらにJICA協力隊連携事業でパラグアイのアスンシオン大学に海外現地拠点を設けて、大学関係者を派遣している。また20を超える海外協定校を有している。

観光

十勝管内の平成25年の観光客入込み数は、967万人とかなり少ない。小樽市は観光都市なので710万人、後志管内では2,035万人となっている。

美瑛町は人口1万人だが、150万人の観光客を呼び込んでいる。十勝と似た田園風景を売りとしているので参考になると思う。

おわりに

北海道の地方創生にあたって、観光に力を入れることも大切であるが、イノベーションできる仕組みを構築することが重要だと思っている。

大学のミッションの一つは「地域貢献」である。大学にとっても地域からの協力依頼を簡単に断らない方がメリットがある。大学の知識などをフルに活用して、農業・漁業などのイノベーションを起こせる仕組みをつくっていく方が大事だと思っている。

お知らせ

「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について

◇救急医療部◇

当会ホームページでは急病・急な症状時の対応を紹介する「応急手当WEB」、救急医療機関の適切な利用について理解を深めてもらう「救急医療啓発パンフレット」を掲載しております。

これらの情報をより一層周知することにご協力いただけます医療機関におかれましては、自院ホームページに下記掲載URLへのリンクをお願いいたします。

なお、リンク掲載後のご連絡は不要ですが、今後の連携強化のため、リンクのご一報をいただければ幸いです。

●応急手当WEB

<http://www.hokkaido.med.or.jp/firstaid/>

●救急医療啓発パンフレット

<http://www.hokkaido.med.or.jp/hokkaido/ambulance.html>

連絡先：北海道医師会事業第二課

TEL 011-231-1725 FAX 011-210-4514 E-mail 2ka@m.douji.jp